アチスルベ（ユキノシタ科チダケサシ属　Astilbe ×arendsii　）

和名；アチスルベ　別名；ショウマ（升麻）、アワモリソウ（泡盛草）、アケボノショウマ（曙升麻）　英名；
　ユキノシタ目 多年草
原産地；日本（沖縄を除く）・中国・中央アジア・北アメリカ　花言葉；自由、気まま、恋の訪れ　花の色；赤、ピンク、紫、白

←　写真－１・2
　　アチスルベの花
撮影日：２０１３年７月17日
撮影場所：インスブルック(Innsbruck オーストリア)にて
撮影者：M さん

　インスブルックの王宮庭園を散策中に見かけました。空に向かって勢いよく伸びた一塊の花穂に感激？群生している姿は、遠くからでも目を引き、引き寄せられました。
　近年のガーデニングブームとともに人気品種だそうで、ボーダーガーデンでよく用いられているそうです。普通、園芸でアスチルベと呼ばれるのはドイツのゲオルク・アレンズが育成し1908年に発表したAstillbe ×arendsii だそうです。洋風・和風の庭どちらにもよく合う花ですが、自然風にまとめます 梅雨前後にかけて風情のある花を咲かせます。

写真－3　アチスルベの枝葉　⇒

撮影日：２０１３年７月17日
撮影場所：インスブルック(オーストリア)にて
撮影者：M さん

株が横に広がりやすいので狭い場所には向いていません。

【樹木・草花の部屋】

写真－4　アチスルベの葉　　⇒
撮影日：２０１３年7月17日
撮影場所：インスブルック(オーストリア)
　　にて
撮影者：Mさん

葉は羽状複葉でさっぱりした姿です
日本を含む東アジア原産の種類（アワモリショウマ・キネンシスなど）が交配に使われているので、ジメジメした日本の気候に順応し丈夫で育てやすい植物だそうです。また、環境への適応能力が高くて場所を選ばず育てやすい植物です。湿り気のある土壌と半日陰を好み、耐寒性があり、日本でも数種が自生・・・。真夏の直射日光で葉焼けを起こしやすいので注意。